

静岡県立焼津中央高等学校令和6年度第2回学校運営協議会 議事録

I 概要

- 1 開催日時 令和6年6月1日（土） 午前11時から午後0時30分
- 2 開催場所 静岡県立焼津中央高等学校 応接室
- 3 出席者（委員） 藁科善彦会長、岡本康夫副会長、池田恵一委員、
稲森錦二委員、渡邊正博委員、後藤陽子委員
- 4 出席者（学校） 遠山一郎校長、松本一真副校長、河原崎正晴教頭、梶弘幸事務長
- 5 傍聴者 なし
- 6 協議資料 静岡県立焼津中央高等学校学校運営協議会設置要領
令和5年度学校経営報告書（自己評価）
令和6年度学校経営計画、
静岡県立焼津中央高等学校 運営上の方針
- 7 備考 特になし

II 議題等（次第順）

- 1 委員及び学校関係者紹介
- 2 校長挨拶
- 3 協議
 - (1) 「学校運営協議会設置要領」について
 - (2) 会長及び副会長の選出（進行上(3)から(2)の順で協議は行った。）
 - (3) 令和5年度学校経営報告書及び令和6年度学校経営計画書について
- 4 その他
- 5 中央祭一般公開の視察

III 協議内容・承認事項等（意見の概要）

- 1 議事録署名人の選出
池田恵一委員と稲森錦二委員の2名を議事録署名人に指名し、承認された。
- 2 会長及び副会長の選出
立候補者がいなかったため、河原崎教頭より藁科委員を会長、岡本委員を副会長とする案が出され、承認された。
- 3 静岡県立焼津中央高等学校学校運営協議会設置要領
河原崎教頭より策定の経緯と内容説明があり、承認された。
- 4 令和5年度学校経営報告書及び令和6年度学校経営計画書について
令和5年度学校経営報告書について松本副校長より、令和6年度学校経営計画書について遠山校長より説明があった。

5 意見・助言等

＜稲森委員＞授業改善はすべての教員が取り組むべき重要なことであり、その推進は学習指導要領の目標実現に向かっていくべきである。また、授業改善の推進にあたり、ICTを活用することは大切だが、それ自体が目的ではない。ICT活用が授業改善につながっているかを意識することが重要ではないか。評価の観点を踏まえた教育活動を展開しながら、生徒に付けたい力を付けることを念頭に教育活動を進めていくことが大切。

＜池田委員＞国公立大学合格者数が過去最高だったことは素晴らしい成果であり、進学実績と授業改善には結びつきがあるだろう。一方で、焼津中央高校の良さは自由さや個性の尊重にあり、そういった教育は卒業生の自分にとっては仕事に生きていると思う。国公立大学の合格者数にとらわれず、個性を生かすという焼津中央の良さを忘れないでほしい。ICT教育について、DXハイスクールに立候補した学校から「ソフト教育もしたい」と勤務先に依頼があったが、焼津中央は立候補しなかったのか。ICT活用だけではなく、プログラミングなどの教育も必要ではないか。

＜岡本委員＞コミュニティスクールは、義務教育学校が先行して実施しており、うまく機能させようと努力をしている。地域の子供が通っており、関係が近く、地域と繋がっていくことは当然との意識がある。一方、焼津中央高校の生徒は志太榛原のみならず静岡などからも通っており、地域の幅や広さからコミュニティスクールをどう捉えるか難しい面がある。どうしても地域の意識は薄くなるなかではあるが、「学校教育」における、地域の中での「人間教育」をおこなう活動の一翼を担っていくのがコミュニティスクールでの地域活動であると考えおり、この活動を進められればよいと思うので、今後皆さんと協議していきたい。

＜藁科委員＞授業改善を進めている教員は100%でなければならない。一方、授業改善ができたかできないかは自己評価だが、できたという教員が100%になるとよい。また、ICT教育を利用している先生は、何を通して改善できたのかを発信していくとよい。なお、数値などから見える評価において、評価の経年変化を見ていきたいと思う。特に一つの学年の評価を追っていくような経年変化が見られるとよい。「～できた」という評価は、誰がしているのか気になっている。報告の分析や評価のフィードバックが必要ではないか。

＜渡邊委員＞定員割れせずにここまで来ていることがありがたい。働き方改革やPTA活動のスリム化等事務量の削減は図られている。DX化で改善できることはまだあるのではないか。

6 中央祭（文化祭）一般公開視察

仮設校舎、体育館、B棟と展示や各種パフォーマンスを視察した。

IV 次回の会議日程

- 1 日時 令和6年10月19日（土）
- 2 会場 本校応接室